令和５年度　施設関係者評価報告書

認定こども園常磐会短期大学付属茨木高美幼稚園

Ⅰ．本園の教育目標

「ゆたかなこころ」と「たくましいからだ」をもち、主体的な幼児の育成をめざす
〇力いっぱい遊ぶ明るく元気な子ども　〇なかよく助け合って遊べる子ども
〇心の優しい子ども　〇素直に表現する子ども
〇よく見、よく聞き、よく考え、自分の力でやりぬく子ども

評価基準
Ａ　計画を上回った実績となった
Ｂ　計画通りの達成となった
Ｃ　計画をしたが実績として達成しきれないことがあった
Ｄ　計画を達成できなかった

Ⅱ．教育・保育における研究テーマ

◎「子ども理解と遊びの理解を深める」
◎「園内研修の充実を図り、保育の質の向上をめざす」

Ⅲ．令和５年度の教育・保育指標及び実績、評価について

１．園児の確保

（１）園児数、学級数（令和６年３月１日現在）

歳児	認可定員	認可定員内訳	１号認定	２号認定	３号認定	実員内訳	実員予定	組数	自己評価
１歳児	２７	１２			２７	１２	２７	１	Ａ
２歳児		１５				１５		１	
満３歳児	１８０	６０	６	―		５９	１８０	３	
３歳児			３８	１５					
４歳児		６０	５０	１１		６１		２	
５歳児		６０	５４	６		６０		２	
合計	２０７	２０７	１４８	３２	２７	２０７		９	

評価指標	具体的な内容	令和５年度実績	自己評価
（２） 園児の確保の方法	・１号認定児の定数獲得 ・２号３号認定児についての市との調整	・本園の教育・保育、環境や遊びの大切さについて、入園説明会（予約制）を土曜にも開催し入園児募集広報を行った。昨年度の実績を基に集団説明会を増やし、土曜に個別対応での相談会も実施したことで、園を身近に感じ好きな遊びから学ぶ教育・保育方針への共感を得ることができた。保護者の不安や質問に丁寧に応えることで、園児獲得につながった。 ・２号３号認定の募集方法の変更などについて直接市の担当者と面談し、情報収集に努めた。市の利用者調整時期の分散に合わせ順次、施設見学や説明、問診会を実施した。パワーポイントを工夫しこども園の良さと質の高い教育・保育を目指していることを広めるとともに、２、３号認定児の定員充足を行った。 ・ホームページで最新情報の更新を行ったが、現行のシステムでは、地域への案内や保育受付、在園児保護者への情報提供、必要書類のダウンロードなど、現在のニーズに応じきれない課題があるため次年度はホームページのリニューアルを行う。	A
（３） 入園選考方法 令和６年度募集	・入園決定方法の保護者周知	・（１号認定）入園相談会の回数を増やし、本園のあり方について理解したうえで入園を希望した者について入園願書を受け付けた。きょうだい関係と未就園児ニコニコを優先し残りの枠を抽選とした。昨年度の先着順での待ち時間・待機場所などの課題が解決し、公正な抽選を行ったことで近隣の方への迷惑も軽減した。 ・（２、３号認定）茨木市の募集方法に沿って行った。 ・親子面接にて子ども観察を行った。療育を受けている子どもは、入園後の保育時間の相談や今後の連携について関係構築に努めるとともにアレルギー給食提供児保護者とは別日、給食業者、園の管理職・看護師と面談を実施し入園前の連携を図ることで安全管理に努めた。	A

２．教育、保育の推進

（１） 園の教育内容や子どもの育ちを保護者や地域に伝え、本園の教育の理解を推進する。	・子ども理解と遊びの理解を図る	・園の教育目標に沿った子どもの育ちについて、令和４年度に引き続き記録をとり、そこからの遊びについて見取りを行い、幼児理解を深めた。 ・子どもの活動の一場面を写真やエピソード事例としておこし、その姿から 10 の姿をもとに育ちをよみとり、子ども理解や保育の充実につなげていった。 ・茨木市の非認知能力育成の取組み「茨木っ子力」とも照らし合わせ、子どもの育ちを見極める視点とし幼小中の育ちのつながりや見通しをもつ保育を意識して行った。 ・教育課程、指導計画のベースを基に日々の見直しを進めた。 ・子どもが主体的に活動できるような指導や環境の構成、行事の在り方について学んだ。 ・新型コロナや感染症の第５類への移行を受け新しい生活環境の中で子どもの生活に応じた環境の在り方を考え整えた。 ・1、２歳児クラスとのつながりや連続性、また教職員間の働き方の違いについて認定こども園として新たに見直す機会をもった。	B
（２） 園内での研修・研究を充実させ、教職員の資質向上と保育の質の向上を図る	・園内研修の充実を図り、保育の質の向上を目指す	・令和５年度からの「10 の姿」を見据えた育ちの園内研究会を日々の保育に活かせるよう、各クラスのエピソード記録を集めて話し合い、主体性、非認知能力の育成と教師、保育者の援助や環境構成の工夫、充実を図り指導力の向上に努めた。 ・本園の保育内容や遊びについて、教師・保育者の資質向上につながるよう専門講師に見ていただき園内研修会の充実をすすめた。 ・２学期後半の作品展では、保育向上のための日頃の教師・保育者の研究の視点や取り組みを子どもたちの実際の遊びの写真記録を掲示し、幼児期に育てたい１０の姿のキーワードに、保護者が触れる体験コーナーを設置し啓発した。保護者からは「子どもの遊びを見る目が変わった」「預かって見ているだけではない事が分かった」などの声が聞かれた。 ・認定こども園となった３付属園で連携をとりながら、地域、形態の差を考慮し互いの保育の資質向上や園児募集方法など合同で話し合う場を設けたり新任教諭の育成のための研修を行ったりし、個々の保育形態や働き方など互いの資質向上ができるよう取り組んだ。 ・インクルーシブ教育について担任だけでなく兼任教員との連携を密にしみんなが過ごしやすい園内環境と指導方法を考え合った。また関連機関との連携を広げていった。 ・園内で研修した内容を保育参観やクラス配信ブログで保護者向けの内容に置き換えて伝えたり、年度末には「保育の芽」にまとめ発行したりした。 ・認定こども園になったことを機に茨木市の巡回を積極的に取り入れた。月に１～３回、	B

		臨床心理士が来園し専門的な手だてを実践たり、保育時間内に発達検査や保護者面談を実施したりすることで保護者にとってより身近に感じられる工夫を行った。	
（3） 小学校や地域との連携、交流活動の充実を図る	・未就園児親子保育 「ニコニコ」 ・未就園児親子園庭開放 「ピヨピヨ」 ・子育て相談 「モシモシ」 ・預かり保育の充実 「パオパオ」 ・小中学校や地域との連携	・対象児は、令和２年４月２日～令和３年４月１日生まれで他の幼稚園・保育所に在籍していない幼児とし火・金の１クラス６名とした。年中児、年少児、２歳児クラスがニコニコと同じ遊び場を共有したりお楽しみ会を企画して触れ合ったり、交流を行い園の教育保育の内容をニコニコの保護者に伝えてきたことで、６名全員が本園への入園希望につながった。 ・コロナ禍で中止していた未就園親子の園開放は、認定こども園としての開放義務化に沿い、開催時間を一定にし、未就園児親子の予約を受け付け、天候に関わらず年間を通じて実施した。在園保護者による保育ボランティアが園の教育保育内容を伝えたり、子育て経験を語るなど自然な交流を図ったりすることができた。本園をより身近に感じ継続して予約をとる親子が増え、再開を喜ぶ声が多く聞かれた。 ・認定こども園の子育て支援事業対象とした子育て相談（モシモシ）を開催した。地域の未就園親子を対象とした子どもの養育に対する相談を受け付け多様な相談時間を設けることで相談者のニーズに応えた。相談内容によってはキンダーカウンセリングや地域の相談窓口として機関につないでいった。相談日、時間をピヨピヨと同様に設け、より親しみをもち身近に感じて相談できる雰囲気を作った。広報として広く知らせる工夫の必要性を感じる。 ・家族の通院、小学校の参観、懇談等の行事での利用、スポーツクラブや英語教室の課外活動の空き時間の利用が多く、年間で延べ 4,000 人が利用した。新２号認定児の利用は保護者就労時間のみで毎日の利用は少ない家庭が多い一方で、２号認定待機をしている就労家庭の毎日の利用が増え、水曜や午前保育・長期休業期間の給食提供への要望が出ている。また、茨木市による認定こども園移行に伴う令和５年度内の２号認定への認定区分変更の措置を知り、順次２号認定の承認を受け認定区分の異動が増えた。各学年２号認定児の定員 15 名に到達しつつある。 ・地域の小中学校や療育機関などの外部の専門機関との交流会へ参加し、幼稚園と地域の取り組みについて意見を交わし本園の教育力向上につなげた。 ・家庭と地域の連携事業の一環として高美太鼓、地域小学校の餅つき大会の参加、地域文	B

		化祭への作品出展など地域行事に積極的に参加した。 ・建て替え工事が終了し、地域に開かれる幼稚園をめざしているが、見える化を不快に感じる住民からの苦情や保護者の登降園のマナーについてのご意見があり、その都度真摯に対応した。 ・２階に計画された絵本コーナーを１階エントランスに移設し、低年齢児も遊べる遊具やゆったり過ごせるスペースを確保したことで、地域の未就園児から在園児まで幅広い子どもの遊び場として活用している。	

Ⅳ．令和５年度施設関係者評価委員の声より（令和 6 年 3 月 21 日施設関係者評価委員会実施）

・園舎建て替え、コロナ感染症拡大の影響を受けた行事が再開して保護者は喜んでいる。（保護者より）
・社会情勢が落ち着き、再び年間行事予定が年度当初に配布されるようになってよかった。（保護者より）
・初めて施設関係者評価委員会に参加して近隣住民からのいろいろな意見に対して、幼稚園の日常的な工夫や苦労が感じられた。教育保育理念にしたがって今後も園児のために保育を推進してほしい。（保護者より）
・登降園時に通用門で一人一人に丁寧に挨拶をしたり、通行する自転車や車から子どもたちを立って守るために指導したりする幼稚園の姿勢に感銘を受けている。挨拶は互いに交わすものであり、残念ながら、地域の現状は挨拶が減ってしまったので続けてほしい。（地域の方より）
・令和５年度は新園舎建て替え中に開拓した地域の公共施設の利用が減っていた。良かった施設利用を残してほしい。（保護者より）
・保護者のニーズも多様化するなか、引き続き乳幼児の発達に即した教育保育を進めていってほしい。（地域の方より）